



◆学生をダシに金儲けの理事会！

広大生のみなさん！ 5 月冒頭の「アメフト・タックル問題」から約 1 か月。焦点は「悪質タックルの指示」の有無だけでなく、学生をモノのように利用し、切り捨て、責任を居直り、高い学費（経済学部初年度納入金は 124 万円）を巻き上げて私腹を肥やす日大理事会総体の腐敗として、誰の目にも明らかになってきています。

内田正人・アメフト部前監督……アメフト界からは永久追放になりましたが、日大理事は辞めても、保健体育審議会事務局長&人事部長として、いまだ予算と人事権を握っています。売上 70 億円の㈱日本大学事業部取締役は 6 月 6 日に辞任したが、一貫して大学をビジネス化して日大生を食い物にしている。

田中英寿理事長——過去、収賄と暴力団癒着で JOC（日本オリンピック委員会）副会長辞任に追い込ま

れている——はいまだに姿を現さず、雲隠れの逃亡を続けています。

過去の日大闘争（上写真）や現在の京大立て看板の闘いにあるように学生には力があります。学生の団結した力で大学・社会を変えよう！

日大・田中英寿理事長（写真右）
実質 No.2 の内田正人・前監督（写真左）



広島大学学生自治会

HP: <http://hirodai86.blog.shinobi.jp/>
MAIL: hirodai86@yahoo.co.jp
TEL: 090-7142-6570 (委員長 森田寛隆)





学のためのあらゆる制度が、資金を獲得するため学生を無視して行われています。

同時に、金儲けの大学経営と一体で学生管理も強化されています。今年の新入生歓迎期における、サークル・部活の規制強化、5月末には何の説明もなし一方的に「誓約書」(誓約内容に違反すれば、サークル・部活を解散する誓約)なるものを書くことが強行されました。日大問題のように、学生に対して、有形無形の圧力をかけて書かせる誓約書や規制強化に何の正当性もありません。

◆学生には力がある！

日大の宮川君が勇気を持って日大理事会を告発したように、また京大生が立て看板問題で立ち上がっているように、広大生は団結して声を上げよう。

金儲けのための「大学改革」に反対し、大学の軍事研究や広大でのサークル・部活の規制、誓約書を撤廃させよう！京大生や日大生に続き、広大生も闘おう！

広大生は力がある 学生は団結しよう！

歴史的に、広大生も団結し行動して学生の権利を守ってきました。学生は声を上げよう！

★総合科学部の掲示板の設置

89年、サークル・部活の権利拡大のために、学生が1400筆の署名を集めて総合化学部棟の学生掲示板を勝ちとっています。

★サークル会館使用延長や助成物品の獲得

サークル会館の22時30分までの使用や土日使用、さらに助成物品の額などは5者会議(文サ連や音響、体育会などの学生団体の集まり)による副学長交渉を通じて勝ちとってきました。

★納得いかない規則はNG！

95年、サークルの先輩たちが大学当局に勝手につくられた「学生生活に関する規則」を無効化させてきました。説明もなく強制する「誓約書」は無効だ！

「大学の役割は民間企業と同じだ。原材料を仕入れ、加工して製品に仕上げ、卒業証書という保証書をつけ企業へ出す。これが産学連携だ」

高橋宏・首都大学東京元理事長(右)の、NPO団体「21世紀大学経営協会」総会(2005年5月)での発言。高橋宏は日本郵船の元副社長。



◆「教育の民営化」と国立大法人化

教育と人間成長のためにあるべき大学が、なぜここまで墮落し、学生をないがしろにしているのでしょうか？どこまで私たち学生の誇りをおとしめるのでしょうか？いったい大学は誰のため、何のためにあるのでしょうか？

上の発言を見てください。今の経済界や大学幹部は、学生を「原材料」「製品」、教育を「加工」としか考えていません。カネもうけこそがすべて――これこそ、田中理事長をはじめとした今の日大幹部の姿そのものです。

◆金儲け、学生無視の「大学改革」

カネもうけ至上主義＝「教育の民営化」は、私立大に限らず、広大などの国立大学法人も同じです。国立大は04年に法人化されて年々予算を削減され、政府や企業の言いなりの研究しかできなくなりました。

広大でのターム制の導入や、スーパーグローバル大

運営交付金は毎年1%(100億)

＝中小規模の大学の一年間の予算が削減！

